

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会  
(第24期・第2回)

議事録

1. 日時 平成31年2月5日(火) 10:00-12:00
2. 会場 日本学術会議6階6-A(1)会議室
3. 出席者(五十音順、敬称略): 相澤 清晴、安達 淳、喜連川 優、木村 学、久留島 典子、澁澤 栄、引原 隆士、溝端 佐登史、村山 泰啓、渡辺美代子  
オブザーバ参加: 林 和弘 (NISTEP)、梶田 将司 (京都大学、遠隔参加)
4. 議題
  1. 前回議事録確認
  2. 大学における研究データマネジメントの現状と課題
  3. その他
5. 配布資料
  - 資料1 第一回委員会議事録案
  - 資料2 大学における研究データマネジメントの現状と課題 (梶田オブザーバ資料1)
  - 資料3 「学術機関における研究データ管理に関する提言(案)」について (梶田オブザーバ資料2)
6. 議事
  1. (議事録確認) 前回議事録案は、当日配布されたスライド資料4点を追加するよう修正された。また、林和弘氏 (NISTEP)のオブザーバ参加を承認した。
  2. (梶田教授の発表) 梶田オブザーバ(京都大学情報環境機構IT企画室・学術情報メディアセンター)から、資料1および2に基づき、遠隔からインターネットを介して、京都大学における研究データマネジメントに係る活動、およびAXIES(大学ICT推進起用議会)データマネジメント部会(RDM部会)における活動についてについて発表があった。主な点は以下の通り:
    - 2015年から研究公正に係る活動として論文発表後10年間データ保存のための体制作りが始まった。
    - 学際融合教育研究推進センターにアカデミックデータ・イノベーションユニット(通称「葛ユニット」)が設置され、研究データマネジメントに関する調査研究に当たっている。8分野から開始した。実際の支援業務はそれぞれの担当組織で行う。
    - 研究データマネジメントプランの作成、研究実施時の支援環境からアーカイブまでのライフサイクルを踏まえたアーキテクチャを考えている。
    - AXIESでは、各大学で研究データマネジメントを考える指針になるものをまと

めようとしている。幅広い分野に対する共通的指針の策定は日本学術会議に期待したい。デジタル環境の変化に即した指針が必要である。

3. （意見交換） 主な意見は以下の通り。

- 8分野の状況はいかに： それぞれの状況を調査している段階である。医療分野で進められている倫理審査とデータ匿名化による提供などで効果が期待できる。
- 成果として期待できるものは： まさに調査中でいろいろな分野の意見を集めている。
- データの重要性の認識は向上しているか： 日本学術会議等で是非リードしていただきたい。
- データが取得時から時間とともに分析精度などが劣化していく問題はどのように議論されているか： サンプルから分析し直してデータを取るにより新たな知見が得られるということもある。
- データ取得を含めた支援方法も論点の一つ。IoTなども関係する。
- データの条件付き公開の方法が学内できちんと定まっていない。産学連携の際などに問題になる。
- データ流通の状況は： 教育データ分野では標準が決まっている。標準化が重要である。
- 大学の作る方針と分野コミュニティの作る方針の二軸で考える必要がある。
- 社会科学では、研究で生まれたデータに対して公共財としての見方がある。
- Nature や Science でも、論文の根拠データの確保を意識している。アーカイブについてのポリシーが問われている。

4. （その他） 委員長から、林和弘氏を本委員会委員とするよう提案があり、了承された。

以上